

## 響けトルコ行進曲

「チャリティーコンサート  
やりたいんだけど」

2月6日のトルコ地震から数日後、ある女性から相談を持ち掛けられた。彼女は10年ほどトルコに滞在した経験を活かしてトルコ料理店を営んでおり、最近では近所の音楽仲間とユニットを組んで活動している。

第二の故郷ともいうべきトルコを襲った大地震で、彼女の友人知人の多くが被災した。遠く離れたこの松江で何かできないかと思案の末、音楽仲間と一緒にコンサートを開き義援金を募ることにしたのだ。この川津にそんなことを考えている人がいるんだ！新鮮な驚きが体を突き抜け、即座に協力を申し出た。

3月21日「心をつなぐ」と銘打ったコンサートの幕が上がった。公民館ホールは三世代の家族連れや盲導犬を連れただ方など、百人を超える聴衆で埋まった。満員の聴衆を前

に、中東風の衣装をまとった3人の女性が、ピアノ、バイオリン、トルコの民族楽器バールマで、トルコ民謡やトルコ行進曲など全9曲を熱演した。

「バイオリンの音色に心が洗われるような気がした」ジャズ風のトルコ行進曲が圧巻だった。コロナ禍で久々の生演奏に触れて、参加者は皆笑顔で会場を後にした。寄せられた義援金は想像していた倍以上の金額となった。

このコンサートは思わぬ広がりを見せている。4月以降、津田、乃木、城東の各公民館で開催されることが決定した。トルコの被災者に思いを馳せ、支援したいと思う人の輪は、確実に大きくなってゆきそうだ。ひとりの住民の熱い想いが実現し拡がっていく。そのお手伝いができたことを、公民館職員として嬉しくもあり、誇りにも思うのである。